

# 御所南だより 3月特別号 特集

# 学校評価

令和 8年3月17日  
京都市立御所南小学校  
校長 鈴木 登美代

学校教育目標 未来に夢が広がる地域の学校

「感じる つながる 自分から」

「ありがとう」あふれる御所南の子ども ~ちがうってすてき ちがうっておもしろい~

御所南小学校では、学校評価の大切な指標として、保護者・児童・教職員アンケートを実施しています。今回は2月に実施したアンケート結果をお知らせします。保護者の皆様、お忙しい中アンケートにご協力をいただきありがとうございます。

児童 A=そう思う B=大体そう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない 保護者 教職員 A=出来ている B=大体出来ている C=あまり出来ていない D=出来ていない

評価内容 (児童)	実現度 (%)				評価内容 (教職員)	実現度 (%)			
	A	B	C	D		A	B	C	D
1 学習のめあてが分かり、学習課題を立てて自ら学習を進めることができますか	48.7	45.3	5.9	0.1	1 学習のめあてを明確にし、子どもたちが自ら学習に取り組めるように指導している	52.9	47.1	0.0	0.0
2 自分たちで学習を進めることができますか	53.7	39.9	6.3	0.1	2 子どもが同士が学習を進めることができるよう指導し、机間巡視や個に応じた支援などきめ細やかな対応をしている	44.2	52.9	2.9	0.0
3 相手の意見を聞き、質問したり意見を述べたりすることができますか	43.7	38.8	16.0	1.5	3 相手の考えや意見を聞き、質問したり意見を述べたりしてお互いに認め合いながら話し合うことができるように指導している	58.8	41.2	0.0	0.0
4 目的に合わせて、自分の思いや考えを書きまとめることができますか	51.9	38.7	7.6	1.8	4 学習課程を大切に、論理的思考力を高めるような授業をすすめている	41.2	58.8	0.0	0.0
5 あきらめず最後まで(分かるまで できるまで)取り組むことができますか	54.9	36.6	7.0	1.5	5 子どもたちが分からないことをねばり強く解決するような指導や支援を行っている	52.9	47.1	0.0	0.0
6 先生は、提出したノートなどに○をしたりするなどでいねいに見てくれますか	73.1	22.3	3.0	1.6	6 子どもたちのよさや努力を認めるとともに、個に応じた適切な指導や支援を行っている	55.9	44.1	0.0	0.0
7 生活科(1・2年)・総合コミュニティ(かがやき)(3~6年)の学習は今後の生活(生き方など)に役立つと思いますか	61.7	28.3	6.8	3.2	7 生活科や総合コミュニティ(かがやき)の学習で、本物に出会う経験を生かし、子どもが意欲的に学習できるよう指導の工夫を行っている	55.9	44.1	0.0	0.0
8 学校は好きですか	55.7	31.4	9.3	3.6	8 子どもたちが楽しく学校に来ることができるよう工夫している	44.1	55.9	0.0	0.0
9 自分からすすんであいさつをしていますか	46.7	39.2	11.2	2.9	9 学校や地域であいさつをするよう指導するとともに、自分からすすんであいさつをしている	67.7	29.4	2.9	0.0
10 友だちを大切にしていますか	77.6	20.8	1.5	0.1	10 人権に関わる取組などを通して、子どもたちが友だちを大切にできる心や態度を育てている	64.7	35.3	0.0	0.0
11 学校やクラスのきまりや約束を守っていますか	46.9	46.0	6.1	1.0	11 学校やクラスのきまりや約束を守るよう指導している	67.7	32.3	0.0	0.0
12 自分にはよいところがあると思いますか	52.0	30.4	10.2	7.4	12 自己肯定感をもつなど、自尊感情を育てる指導を行っている	52.9	47.1	0.0	0.0
13 先生は、あなたのことをよく分かっていると思いますか	58.1	31.5	7.2	3.2	13 子どもの様子をよくみたり、話しかけたりして子どもを理解する努力をしている	61.8	38.2	0.0	0.0
14 自分は、家族や先生、友だちに大切にされていると思いますか	67.9	28.3	2.6	1.2	14 子どものことについて連絡を密にするなど、保護者と連携して指導するようにしている	50.0	50.0	0.0	0.0
15 読書は好きですか	57.2	24.2	10.8	7.8	15 子どもたちが読書に興味・関心をもち、読書力が身に付くよう指導の工夫を行っている	58.8	32.4	8.8	0.0
16 体を動かす遊びやスポーツはできていますか	64.8	22.3	9.8	3.1	16 子どもたちが運動に親しみ、進んで体を動かしたり取り組んだりできるよう指導の工夫を行っている	41.2	52.9	5.9	0.0
17 交通ルールを守っていますか	74.6	21.5	2.9	1.0	17 交通のきまりを守るよう指導している	64.7	35.3	0.0	0.0
18 1年生から5年生のみなさんに聞きます。昨年より長くなった放課後の時間、好きなことや興味のあることに夢中になって楽しく過ごすことができますか。	64.7	23.7	6.9	4.7	18 単元全体を意識して「個別の時間」協働の時間」「共有の時間」を工夫した授業をしている。	38.2	55.9	5.9	0.0
19 1・2年生のみなさんに聞きます。これまでに幼稚園や保育園の子どもたちと一緒に活動した時、幼稚園や保育園の子どもたちのことを考えて活動することができましたか。	64.6	27.1	5.2	3.1	19 非認知能力(主体的に学びに向かう態度)を意識しながら教育活動に取り組むことができている。	35.3	61.8	2.9	0.0
20 4・5年生のみなさんに聞きます。「ハカセの時間」に夢中になって自分のやりたいこと、調べたいことができますか。	68.0	26.2	3.3	2.5	20 「ハカセの時間」に子どもが好きなことや調べたいことをとことん追求できるように活動の工夫をしている	38.8	58.0	3.2	0.0

評価内容 (保護者)	実現度 (%)			
	A	B	C	D
1 子どもがめあてをもち、自ら学習を進めること	14.6	54.6	27.5	3.3
2 教師が子ども同士の話し合いの仕方の指導や個に応じた支援などをきめ細やかに行うこと	22.9	65.5	10.3	1.3
3 子どもたちが進んで発表したり、友だちのは話をよく聞いたりしてお互いに認め合いながら学習すること	27.9	61.2	9.6	1.3
4 子どもが論理的に考え、それを表現する力をつけること	14.5	57.4	25.9	2.2
5 子どもが分からないことを粘り強く解決すること	12.0	53.8	31.3	2.9
6 教師が子どものよさや努力を認めること	44.0	49.7	4.9	1.4
7 本物に出会う経験を通して、子どもが意欲的に学習できるよう指導の工夫を行うこと	27.4	59.6	11.7	1.3
8 子どもの成長や困りについて、学校と家庭が連携していくこと	31.5	57.4	9.4	1.7
9 子どもが早寝早起きをする	32.6	40.1	22.1	5.2
10 子どもが朝食を食べる	79.3	16.9	3.2	0.6
11 子どもが体を動かす遊びやスポーツに取り組むこと	37.0	39.9	21.4	1.7
12 子どもが読書すること	31.4	33.1	29.7	5.8
13 子どもが交通ルールを守る	47.1	47.0	5.3	0.6
14 昨年より長くなった放課後の時間を、好きなことに没頭したりゆとりある時間にしたりすること(1年~5年)	20.1	45.9	28.3	5.7
15 近隣の幼稚園や保育園と連携して教育活動に取り組むこと(1・2年)	29.0	50.1	17.2	3.7
16 「ハカセの時間」で子どものやりたいことや調べたいことをとことん追究すること	26.8	50.6	16.5	6.1

本年度も学校教育目標と目指す子ども像を具体的にもち、教職員全員で常に意識しながら教育活動を進めてきました。学校評価には、文部科学省指定を受け「40分授業」「幼保小連携」「ハカセの時間」に関するアンケート項目を継続して評価していきます。

【アンケート結果】  
全体的に前期と比べ、「とてもそう思う(A)」「まあそう思う(B)」を含む肯定的評価全体はあまり変わりありませんでした。児童アンケートでは⑧「40分授業」⑨「幼保小連携」⑩「ハカセの時間」に関わる項目が前期に引き続き概ね良好な結果となっています。

学習面では①②⑦の「主体性」に関わる項目が特に実現度の高い項目となっています。これらは、「生活科」や「かがやき」などの学習で地域の方や学習テーマに詳しい専門家の方から学ぶ機会を効果的に設定できたことが、児童の「主体性」を育む一因になったのではないかと考えています。同じ項目の教職員の結果からは、まだまだ工夫の余地があります。児童の主体的な学びを促せるよう、「本物に出会う経験」を大切にしながら児童の好奇心を伸ばしていきます。

課題点としては、③「相手の意見を聞き、質問したり意見を述べたりすることができますか」の項目が前期に引き続き、「あまりそう思わない」と回答した子どもの割合が15%を超えている点です。単元のなかでの「共有」の時間の設定の仕方や支援のあり方など、今後も教員研修を通して、子どもたちにより力をつけていけるよう、目指す子ども像について再確認するとともに、授業改善を図っていきます。

生活面の評価項目では、「あまりできていない」項目をみると前期に引き続き、⑨「早寝早起き」⑩「スポーツ」⑪「読書」の項目で「あまりできていない」の割合が高くなっています。引き続き「委員会活動の取組の充実」「体づくりを意識した取組」「読書に関わる取組の充実と周知」などを中心に据えて取り組むとともに、教職員の意識も高めていきます。また、全体的に前期に回答いただいた「重要度」と後期の「実現度」の数値にギャップがあり、非常に重視しているにもかかわらず、実現度Aが低い項目は、今後も家庭・学校・地域での連携強化や支援の重点領域として検討していきます。また、説明や共有の工夫もしていきます。「ハカセの時間」では地域の方や保護者のサポーターとしての支援や参観も実施したことで、幅広く周知されつつあります。今後も家庭と学校で連携を図りながら、目指す子どもの姿を共有し、来年度からの教育活動にしっかりとつなげていきたいと思っております。

【学校運営協議会でのご意見】  
・家庭でハカセの時間についての話題が出た際、子どもの思いに寄り添いながらコミュニケーションをとることが大切だと感じた。  
・「かがやき」の学習など、子どもたちのために学区として積極的に参加していきたい。  
・子どもを取り巻く大人が大きな気持ちを持ち子どもの小さな「できた」や「わかった」を認めることが大切だと思う。